2018
講義要綱
SYLLABUS

北翔大学大学院

GRADUATE SCHOOL,HOKUSHO UNIVERSITY

平成30年度　北翔大学大学院　学事日程

月		火		水		木		金		土		日		備考
												4／1		
4／2		4／3	在学生オリエンテーション	4／4	入学式	4／5	オリエンテーション	4／6	オリエンテーション	4／7		4／8		
4／9	①	4／10	①	4／11	①	4／12	①	4／13	①	4／14		4／15		教育学科養護教諭コース３年次 養護実習：４/９～４/27
4／16	②	4／17	②	4／18	②	4／19	②	4／20	②	4／21		4／22		
4／23	③	4／24	③	4／25	③	4／26	③	4／27	③	4／28		4／29	昭和の日	
4／30	振替休日	5／1	7/16の振替休日	5／2	9/24の振替休日	5／3	憲法記念日	5／4	みどりの日	5／5	こどもの日	5／6		
5／7	④	5／8	④	5／9	④	5／10	④	5／11	④	5／12		5／13		
5／14	⑤	5／15	⑤	5／16	⑤	5／17	⑤	5／18	⑤	5／19		5／20		こども学科２年次 教育実習：５/14～６/１
5／21	⑥	5／22	⑥	5／23	⑥	5／24	⑥	5／25	⑥	5／26		5／27		
5／28	⑦	5／29	⑦	5／30	⑦	5／31	⑦	6／1	⑦	6／2		6／3		健康福祉学科(介護) ４年次 訪問介護実習：６/18～６/29
6／4	⑧	6／5	⑧	6／6	⑧	6／7	⑧	6／8	⑧	6／9		6／10		健康福祉学科(介護) ２年次 介護基礎実習：６/27～６/29
6／11	⑨	6／12	⑨	6／13	⑨	6／14	⑨	6／15	⑨	6／16		6／17		
6／18	⑩	6／19	⑩	6／20	⑩	6／21	⑩	6／22	⑩	6／23		6／24		
6／25	⑪	6／26	⑪	6／27	⑪	6／28	⑪	6／29	⑪	6／30		7／1		
7／2	⑫	7／3	⑫	7／4	⑫	7／5	⑫	7／6	⑫	7／7		7／8		
7／9	⑬	7／10	⑬	7／11	⑬	7／12	⑬	7／13	⑬	7／14		7／15		
7／16	海の日⑭	7／17	⑭	7／18	⑭	7／19	⑭	7／20	⑭	7／21		7／22		
7／23	⑮	7／24	⑮	7／25	⑮	7／26	⑮	7／27	⑮	7／28		7／29		教育学科４年次 保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ：８月
7／30	補講・試験日(月)	7／31	補講・試験日(火)	8／1	補講・試験日(水)	8／2	補講・試験日(木)	8／3	補講・試験日(金)	8／4		8／5		教育学科養護教諭コース２年次 看護学臨床実習：８月中
8／6		8／7		8／8		8／9		8／10		8／11	山の日	8／12		健康福祉学科(介護) ３年次 介護実習Ⅱ：８/20～９/28
8／13		8／14		8／15		8／16		8／17		8／18		8／19		健康福祉学科３年次 相談援助実習：８月～９月
8／20		8／21		8／22		8／23		8／24		8／25		8／26		教育学科３年次 教育実習Ⅰ(幼･小)： 幼稚園　８/20～９/７ 小学校　８/20～９/14
8／27		8／28		8／29		8／30		8／31		9／1		9／2		
9／3		9／4		9／5	学園創立記念日	9／6		9／7		9／8		9／9		心理カウンセリング学科４年次 精神保健福祉援助実習：８月～９月
9／10		9／11		9／12		9／13		9／14		9／15		9／16		こども学科２年次 保育実習（保育所）：８月～９月
9／17	敬老の日	9／18		9／19		9／20	オリエンテーション	9／21	①	9／22		9／23	秋分の日	こども学科２年次 保育実習（施設）：９月～12月
9／24	振替休日①	9／25	①	9／26	①	9／27	①	9／28		9／29	大学祭	9／30		
10／1	②	10／2	②	10／3	②	10／4	②	10／5	②	10／6		10／7		
10／8	体育の日	10／9	③	10／10	③	10／11	③	10／12	③	10／13		10／14		
10／15	③	10／16	④	10／17	④	10／18	④	10／19	④	10／20		10／21		
10／22	④	10／23	⑤	10／24	⑤	10／25	⑤	10／26	⑤	10／27		10／28		
10／29	⑤	10／30	⑥	10／31	⑥	11／1	⑥	11／2	⑥	11／3	文化の日	11／4		
11／5	⑥	11／6	⑦	11／7	⑦	11／8	⑦	11／9	⑦	11／10		11／11		
11／12	⑦	11／13	⑧	11／14	⑧	11／15	⑧	11／16	⑧	11／17		11／18		
11／19	⑧	11／20	⑨	11／21	⑨	11／22	⑨	11／23	勤労感謝の日⑨	11／24		11／25		
11／26	⑨	11／27	⑩	11／28	⑩	11／29	⑩	11／30	⑩	12／1		12／2		
12／3	⑩	12／4	⑪	12／5	⑪	12／6	⑪	12／7	⑪	12／8		12／9		
12／10	⑪	12／11	⑫	12／12	⑫	12／13	⑫	12／14	⑫	12／15		12／16		
12／17	⑫	12／18	⑬	12／19	⑬	12／20	⑬	12／21	⑬	12／22		12／23	天皇誕生日	
12／24	振替休日	12／25		12／26		12／27		12／28		12／29		12／30		
12／31		1／1	元旦	1／2		1／3		1／4		1／5		1／6		
1／7	⑬	1／8	⑭	1／9	⑭	1／10	⑭	1／11	⑭	1／12		1／13		
1／14	成人の日	1／15	11/23の振替休日	1／16	⑮	1／17	⑮	1／18	⑮	1／19		1／20		
1／21	⑭	1／22	⑮	1／23	補講・試験日(水)	1／24	補講・試験日(木)	1／25	補講・試験日(金)	1／26		1／27		
1／28	⑮	1／29	補講・試験日(火)	1／30		1／31		2／1		2／2		2／3		
2／4	補講・試験日(月)	2／5		2／6		2／7		2／8		2／9		2／10		健康福祉学科(介護) ２年次 介護実習Ⅰ：２/12～３/11
2／11	建国記念の日	2／12		2／13		2／14		2／15		2／16		2／17		心理カウンセリング学科３年次 精神保健福祉援助実習：２月～３月
2／18		2／19		2／20		2／21		2／22		2／23		2／24		教育学科３年次 保育実習Ⅰ(保育所)：２月
2／25		2／26		2／27		2／28		3／1		3／2		3／3		教育学科３年次 保育実習Ⅰ(施設)：３月
3／4		3／5		3／6		3／7		3／8		3／9		3／10		
3／11		3／12		3／13		3／14		3／15		3／16		3／17		
3／18		3／19	学位記授与式	3／20		3／21	春分の日	3／22		3／23		3／24		
3／25		3／26		3／27		3／28		3／29		3／30		3／31		

講義要綱 SYLLABUS の利用にあたって

この冊子は、2018（平成30）年度に開講される授業科目の概要が記載されています。
授業の概要や到達目標をよく確認して授業を選択する参考にしてください。シラバスには、授業の担当教員名や、単位数等の他、次のような事項が記載されています。シラバスに記載された内容をよく理解し、授業に臨んでください。

・授業のねらい
・到達目標
・授業計画
・準備学習の内容（事前・事後の学習）
・使用するテキスト（教科書）や、参考書
・成績評価の方法（どのような基準で評価が決まるのか）
・質問への対応（連絡先など）
・その他（履修に当たっての特に注意すべき事項が記載されています）

《学習形態》

「授業の計画」各回の右欄に書かれている記号は学習形態を表し、授業の進め方、指導方法を表しています。

学習形態の用語説明

記号	学習形態	概要説明
A	講義	
B	演習	
C	実験	
D	実習	
E	実技	
F	プレゼンテーション	学生が、指示されたテーマや課題について、グループもしくは単独で調査・学習・実習等を行い、そのことについて他の受講生や教員等聴衆の前で発表する学習方法である。発表形式は、パワーポイントなどの情報機器を活用したものやポスターセッションなど様々である。発表後は、聴衆からの質疑に応答する。○○発表会、○○報告会等を含む。
G	レポートライティング	与えられたテーマや課題について調査や実験等を行い、調べた事実やデータを分析して、その過程と結果・考察などを文書にまとめる。あるいは、授業で学習したことを自分の言葉でまとめたり、自分の経験したことや体験したことなどについて、感じたことを理由とともにまとめるなど、知識や経験を自分の力で文書で表現する学習方法である。
H	グループワーク	教員から与えられた課題に対して、小グループ（3人から6人程度が一般的）内で共同作業やコミュニケーションをとりながら学修を進めていく協同学習である。コミュニケーション能力、メンバーが役割を分担した上で相互に協力・協働して課題に取り組む姿勢、自分の意見を主張する力と他人の意見を受け入れる力、決められた時間内に課題を解決して答えを出す力などを養成し、学生が社会に出てから活動するために必要な力を身につける。

I	ディベート	ある公的な主題について異なる立場（肯定側と否定側）に分かれ議論することを通して、第三者を客観的な証拠に基づいて説得するコミュニケーション形態（討論をする形式）である。 ディベートを通して学生の思考が活性化され、自分の意見や問題意識を持ったり、より論理的な考え方ができるようになるといった効果が期待される。
J	事例研究	ある事例について調査・研究し、問題の所在・原因を究明し、どのように対処するか解決策を見出す学習活動である。指導者は、学生の個別または集団研究に対して、研究の場を設定し、具体的な助言をしたり、事例を紹介したり、研究をコーディネートしたりして、学生の研究を導く立場で関わる。
K	ワークシート	授業前あるいは授業中に、学習の課題や問題等を提示した用紙を用い、調べたことや理解したことを確認し、理解の深化を促す学習方法である。また、講義の内容を書き込めるように準備された用紙等で理解の確認を行ったり、ワークシートに記入された個々の考えをもとに、ペアやグループワークで話し合い、学習内容を共有することもある。
L	ふり返り	授業の途中や終了時に、理解したことや分からなかったこと等について確認を行い、理解の促進を図る学習方法である。確認の方法としては、振り返りシート等の記入、ペア・グループワークによる意見の共有などがある。
M	フィールドワーク	社会調査における情報収集技法の一つである。研究者が直接現場へ出かけ一定期間滞在し、人々の生活に密着しながら出来事を観察・記述し、その空間の社会的構造をリアルに分析しようとするものである。 アクティブ・ラーニングの視点から、本学での「フィールドワーク」とは教員が提示したテーマや課題等について、学生が直接現場へ出かけ実地調査や研究等を通して、より深く分析し課題解決に向かうことをねらいとした学習形態である。
N	ロールプレイ	現実に起こる場面を想定して、参加者がそれぞれに与えられた役割を演じ（ロールプレイ）、疑似体験（シミュレート）をする学習方法である。技術・技能の修得や、現実的なケースにおける多面的な見方、態度・姿勢の涵養、他人の立場への理解などを促進する際に効果的である。

教 育 課 程 表

人間福祉学専攻　専門科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数 2年次 前	後	教員名	展開他	免許・資格	ページ
社会福祉学領域							
地域福祉特論	講義	2		尾形良子	集中講義	[人]高専(福祉)_選必	41
学際領域特論	講義	2		佐藤克之	隔年開講 集中講義		42
社会福祉演習	演習	2		今井博康 梶晴美 橋本菊次郎	集中講義	[人]高専(福祉)_選必	43
心理学領域							
家族心理学特論	講義		2	河岸由里子	臨床心理学専攻同時展開 集中講義		44
研究指導							
人間福祉特別研究Ⅲ	演習	②		担当教員	集中講義		45
人間福祉特別研究Ⅳ	演習		②	担当教員	集中講義		46

人間福祉学専攻　教職に関する科目

科目名	授業形態	年次・単位数 2年次 前	後	教員名	展開他	免許・資格	ページ
教育経営特論	講義		2	佐々木邦子	生涯学習学専攻同時展開	[人]高専(福祉)_選必	47
教育方法特論	講義		2	浅尾秀樹	生涯学習学専攻同時展開	[人]高専(福祉)_選必	48

人間福祉学研究科
人間福祉学専攻
2年次

科目名	地域福祉特論	授業形態	講義	単位数	2
教員名	尾形　良子				
授業の目的	ねらい	社会福祉の学習においては現実に起こっている社会福祉問題や実践と乖離していては意味がない。そのため地域福祉の現状の中から課題を発見し、課題の生起する構造や対処を考える機会としていきたい。			
	到達目標	(1)地域福祉の実践が担う役割と意義を実践の詳細や展開過程を併せて学習する。 (2)地域福祉の現状の中から課題を発見し、地域福祉の実践の到達度や地域への理解を深める。			

授業の計画		
	第1回	【テーマ】オリエンテーション 【計画内容】講義についての説明を行い、取り扱う話題について協議する。 【準備学習の内容】学部レベルのテキストの復習を行ってくる。	A
	第2回	【テーマ】地域福祉の実践①人材 【計画内容】地域福祉の実践者を1～2人取り上げ、テキストおよび資料を読みあわせる。その中で次回に深めるべきテーマや課題を決める。 【準備学習の内容】学部レベルの復習を行う。	F、H
	第3回	【テーマ】地域福祉の実践①人材(ディスカッション) 【計画内容】前回決めたテーマ、課題についてディスカッションを行い理解を深める。 【準備学習の内容】前回の文献、資料を精読してくる。	F、H
	第4回	【テーマ】地域福祉の実践②地域福祉の推進機関 【計画内容】地域福祉の推進機関をいくつか取り上げ、テキストおよび資料を読みあわせる。その中で次回に深めるべきテーマや課題を決める。 【準備学習の内容】地域福祉の推進機関の基礎知識を確認しておく。	F、H
	第5回	【テーマ】地域福祉の実践②地域福祉の推進機関(ディスカッション) 【計画内容】前回決めたテーマ、課題についてディスカッションを行い理解を深める。 【準備学習の内容】前回の文献、資料を精読してくる。	F、H
	第6回	【テーマ】地域福祉の実践③高齢者領域 【計画内容】地域福祉の高齢者領域の実践を取り上げ、テキストおよび資料を読みあわせる。その中で次回に深めるべきテーマや課題を決める。 【準備学習の内容】地域福祉の高齢者領域の基礎知識を確認しておく。	F、H
	第7回	【テーマ】地域福祉の実践③高齢者領域(ディスカッション) 【計画内容】前回決めたテーマ、課題についてディスカッションを行い理解を深める。 【準備学習の内容】前回の文献、資料を精読してくる。	F、H
	第8回	【テーマ】地域福祉の実践④障がい者領域 【計画内容】地域福祉の障がい者領域の実践を取り上げ、テキストおよび資料を読みあわせる。その中で次回に深めるべきテーマや課題を決める。 【準備学習の内容】地域福祉の障がい者領域の基礎知識を確認しておく。	F、H
	第9回	【テーマ】地域福祉の実践④障がい者領域(ディスカッション) 【計画内容】前回決めたテーマ、課題についてディスカッションを行い理解を深める。 【準備学習の内容】前回の文献、資料を精読してくる。	F、H
	第10回	【テーマ】地域福祉の実践⑤児童領域 【計画内容】地域福祉の児童領域の実践を取り上げ、テキストおよび資料を読みあわせる。その中で次回に深めるべきテーマや課題を決める。 【準備学習の内容】地域福祉の児童領域の基礎知識を確認しておく。	F、H
	第11回	【テーマ】地域福祉の実践⑤児童領域(ディスカッション) 【計画内容】前回決めたテーマ、課題についてディスカッションを行い理解を深める。 【準備学習の内容】前回の文献、資料を精読してくる。	F、H
	第12回	【テーマ】地域福祉の実践⑥中山間地の問題 【計画内容】地域福祉の中山間地の問題および実践を取り上げ、テキストおよび資料を読みあわせる。その中で次回に深めるべきテーマや課題を決める。 【準備学習の内容】中山間地の問題について予め調べておく。	F、H
	第13回	【テーマ】地域福祉の実践⑥中山間地の問題(ディスカッション) 【計画内容】前回決めたテーマ、課題についてディスカッションを行い理解を深める。 【準備学習の内容】前回の文献、資料を精読してくる。	F、H
	第14回	【テーマ】まとめ① 【計画内容】地域福祉の課題の中から、特に関心をもてるテーマを選び報告する。 【準備学習の内容】報告資料を作成する。	F、H
	第15回	【テーマ】まとめ② 【計画内容】前回の報告から共通する課題や要素を分析し、メンバー全員で講義の総括を行う。 【準備学習の内容】前回報告資料の精読、まとめを作成してくる。	F、H

テキスト	プリントを使用します
参考書	講義内で指示します

成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			70%		30%	
	補足						

質問への対応	講義内で指示します。
資格	[人]高専(福祉)_選必
その他	

科目名	学際領域特論	授業形態	講義	単位数	2
教員名	佐藤　克之				

授業の目的		
	ねらい	学際領域特論では、人間福祉学を取り巻く様々な領域の専門分野について事例を上げ、各専門分野間の重なる領域や複合的領域について、学際的視点で取り上げます。特に、福祉のまちづくり、福祉工学、ジェロントロジー、老年社会科学の学際領域の研究成果を検証し、学際領域の社会的ニーズと今後の研究課題を学びます。このことを踏まえて、今後の学際領域の研究テーマを設定して、それを提案することを目的とします。
	到達目標	(1)学際領域とは何か、資料収集の方法を専門的に理解できる。 (2)学際領域の社会的ニーズと今後の研究課題を分析できる。 (3)学際的研究論文作成に役立つ実際的調査力を修得できる。 (4)学際的研究論文作成に役立つ企画・計画力を修得できる。

授業の計画			
	第1回	【テーマ】オリエンテーション、学際領域研究の意義と課題 【計画内容】講義の紹介、15回の講義計画・テキスト・参考書・成績評価の方法について解説します。 【準備学習の内容】これまでの各自の研究成果をレポートにまとめておくこと。	A
	第2回	【テーマ】人間福祉学を取り巻く様々な領域の専門分野の整理 【計画内容】人間福祉学を取り巻く様々な領域の専門分野について事例を上げ、各専門分野間の重なる領域や複合的領域について整理し、各自が収集した情報を全員が発表、ディスカッションを行い共有の知識とします。 【準備学習の内容】インターネットや研究雑誌で、様々な専門分野の重なる領域や複合的領域を調べておくこと。	A、H、J
	第3回	【テーマ】福祉のまちづくりの学際領域の整理 【計画内容】福祉のまちづくりの各種研究成果を調べ、福祉意識、福祉の運営、福祉環境などの領域を組み合わせた研究フレームを比較考察し、各自が収集した情報を全員が発表、ディスカッションを行い共有の知識とします。 【準備学習の内容】配付資料を予習しておくこと。	A、H、J
	第4回	【テーマ】福祉工学の学際領域の整理 【計画内容】福祉工学の各種研究事例成果を調べ、人間工学、機械工学、電気工学、建築工学、リハビリテーション、ロボット支援などの領域を組み合わせた研究フレームを比較考察し、各自が収集した情報を全員が発表、ディスカッションを行い共有の知識とします。 【準備学習の内容】配付資料を予習しておくこと。	A、H、J
	第5回	【テーマ】ジェロントロジーの学際領域の整理 【計画内容】日本老年社会科学会でのジェロントロジーの歴史と考え方を調べ、生命科学、心理学、社会学、経済学、工学などの領域を組み合わせた研究フレームを比較考察し、各自が収集した情報を全員が発表、ディスカッションを行い共有の知識とします。 【準備学習の内容】配付資料を予習しておくこと。	A、H、J
	第6回	【テーマ】老年社会学の最近5年間の研究成果の整理 【計画内容】日本老年社会科学会の最近5年間の研究成果を調べ、少子高齢社会の分析、医療、看護、介護、法学、社会政策などの領域を組み合わせた研究フレームを比較考察し、各自が収集した情報を全員が発表、ディスカッションを行い共有の知識とします。 【準備学習の内容】インターネットや研究雑誌で予習しておくこと。	A、H、J
	第7回	【テーマ】人間福祉学を取り巻く学際領域の概念図の作成 【計画内容】各自、前半の授業で得た研究フレームをもとに、総合的包括的な学際領域の概念図を作成し、各自が収集した情報を全員が発表、ディスカッションを行い共有の知識とします。 【準備学習の内容】学際領域の概念図の作成をしておくこと。	A、H、J
	第8回	【テーマ】学際領域の社会的ニーズの整理 【計画内容】各自、学際領域の社会的ニーズを提案し、その概念図を作成、各自が収集した情報を全員が発表、ディスカッションを行い共有の知識とします。 【準備学習の内容】学際領域の社会的ニーズをレポートにまとめておくこと。	A、H、J
	第9回	【テーマ】今後の学際的研究課題の整理① 【計画内容】各自、学際的研究課題としての背景、研究目的を各自が収集した情報を基に全員が発表、ディスカッションを行い共有の知識とします。 【準備学習の内容】上記内容をレポートにまとめておくこと。	A、H、J
	第10回	【テーマ】今後の学際的研究課題の整理② 【計画内容】各自、提案した学際的研究課題の研究方法、求められる知見、先行研究の情報を全員が発表、ディスカッションを行い共有の知識とします。 【準備学習の内容】上記内容をレポートにまとめておくこと。	A、H、J
	第11回	【テーマ】学際的研究論文作成に役立つ実際的調査力の修得① 【計画内容】実際的調査力を修得するために、どのような方法があるか、各自が収集した情報を全員が発表、ディスカッションを行い共有の知識とします。 【準備学習の内容】配付資料を予習しておくこと。	A、H、J
	第12回	【テーマ】学際的研究論文作成に役立つ実際的調査力の修得② 【計画内容】学際的研究論文作成に役立つ実際的調査力として演習した内容を整理し、各自が収集した情報を全員が発表、ディスカッションを行い共有の知識とします。 【準備学習の内容】前回を復習し、設定した研究課題についての実際的調査をレポートにまとめておくこと。	A、H、J
	第13回	【テーマ】学際的研究論文作成に役立つ企画・計画力の修得① 【計画内容】社会的ニーズから学際的研究論文作成に役立つ企画・計画力を検討し、各自が収集した情報を全員が発表、ディスカッションを行い共有の知識とします。 【準備学習の内容】配付資料を予習しておくこと。	A、H、J
	第14回	【テーマ】学際的研究論文作成に役立つ企画・計画力の修得② 【計画内容】学際的研究論文作成に役立つ企画・計画力を演習します。さらに、各自が収集した情報を全員が発表し、ディスカッションを行い共有の知識とします。 【準備学習の内容】前回を復習し、企画力・計画力を具体的にまとめておくこと。	A、H、J
	第15回	【テーマ】学際領域の研究テーマの提案 【計画内容】今後の学際領域の研究テーマを設定し、ポスター発表等でのプレゼンテーションを行います。 【準備学習の内容】学際領域の研究テーマをプレゼンテーション用にまとめておくこと。	A、H、J

テキスト	適宜紹介します
参考書	適宜紹介します

成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			60%	20%	20%	
	補足						

質問への対応	初回講義時に具体的に説明します
資格	
その他	大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に基づき、社会人学生への受講形態の配慮を行う。

科目名	社会福祉演習	授業形態	演習	単位数	2
教員名	今井　博康、梶　晴美、橋本　菊次郎				

授業の目的		
	ねらい	社会福祉援助専門職はその実践を客観的に振り返り、質の高いサービス提供を目指していく責務をもつ。それは国民の生活課題の解決と社会環境の望ましい変化を目的におくからである。実践力を高めるために諸方法があり、中でも事例検討・事例研究、スーパービジョンは頻繁に用いられてきた。ただし実際には、その運営や進行が、中止に至る例も少なくない。そこで本演習では、それら諸方法の基本的理解と実践への応用を取り上げる。また、今日の社会福祉問題は、どの領域にあろうと高齢者及び認知症、加齢に伴う中高年以降の生活諸問題、児童、障害者に関する認識を欠かすことができないほど複合化、多様化をみせている。そこでそれらに関連した事例を用いつつ、目標の到達への接近を図る。
	到達目標	(1)事例研究の定義、目的、展開方法が理解できる。 (2)事例検討の定義、目的、展開方法が理解できる。 (3)スーパービジョンの定義、目的、展開方法が理解できる。

授業の計画			
	第1回	【テーマ】スーパービジョンの定義、目的、構成要素、事例検討と事例研究との比較 【計画内容】複数の定義を紹介しつつ、目的、構成要素それぞれについて解説します。またここまで実施してきた事例検討と事例研究、またスーパービジョンとの違いについて解説を加えます。(今井博康) 【準備学習の内容】事前の予習課題に取り組むこと。	A、J
	第2回	【テーマ】スーパービジョンの機能 【計画内容】スーパービジョンのもつ機能について理解を深めます。(今井博康) 【準備学習の内容】事前の予習課題に取り組むこと。	A、J
	第3回	【テーマ】スーパービジョン演習① 【計画内容】障害者の地域生活支援事例を用いてスーパービジョンを実施します。(今井博康) 【準備学習の内容】事前の予習課題に取り組むこと。	A、J
	第4回	【テーマ】スーパービジョン演習② 【計画内容】いわゆる診断前の受診等の相談事例に基づいてスーパービジョンを実施します。(今井博康) 【準備学習の内容】事前の予習課題に取り組むこと。	A、J
	第5回	【テーマ】スーパービジョン演習③ 【計画内容】中高年者の事例を用いてスーパーバイザー役を担当し、模擬的に展開してみます。(今井博康) 【準備学習の内容】事前の予習課題に取り組むこと。	A、J
	第6回	【テーマ】スーパービジョン演習④ 【計画内容】グループスーパービジョンを模擬的に体験してみます。(今井博康) 【準備学習の内容】事前の予習課題に取り組むこと。	A、J
	第7回	【テーマ】本演習総括・ディスカッション 【計画内容】事例研究、事例検討、スーパービジョンの特徴と使用意図等に関するディスカッションを実施します。(今井博康) 【準備学習の内容】事前の予習課題に取り組むこと。	A、J
	第8回	【テーマ】事例研究の方法 【計画内容】事例研究の意義・構成要素・展開方法について理解します。(橋本菊次郎) 【準備学習の内容】シラバスの内容を熟読しておくこと。事前の予習課題に取り組むこと。	A、J
	第9回	【テーマ】事例検討とは 【計画内容】事例検討の目指すもの、具体的な進め方について理解します。(橋本菊次郎) 【準備学習の内容】今まで自分が行ってきた事例検討の方法について確認しておくこと。	A、J
	第10回	【テーマ】事例検討① 【計画内容】知的障がい児者の支援実践事例により事例検討を行います。(橋本菊次郎) 【準備学習の内容】事前の予習課題に取り組むこと。	A、J
	第11回	【テーマ】事例検討② 【計画内容】精神障害者の支援実践事例により事例検討を行います。(橋本菊次郎) 【準備学習の内容】事前の予習課題に取り組むこと。	A、J
	第12回	【テーマ】事例検討③ 【計画内容】発達障がい児者の支援実践事例により事例検討を行います。(梶晴美) 【準備学習の内容】事前の予習課題に取り組むこと。	J
	第13回	【テーマ】事例検討④ 【計画内容】身体障がい児者の支援実践事例により事例検討を行います。(梶晴美) 【準備学習の内容】事前の予習課題に取り組むこと。	J
	第14回	【テーマ】事例検討⑤ 【計画内容】高齢者の支援実践事例により事例検討を行います。(梶晴美) 【準備学習の内容】事前の予習課題に取り組むこと。	J
	第15回	【テーマ】まとめ 【計画内容】事例検討を振り返り、事例検討の意義や役割について考えます。(梶晴美) 【準備学習の内容】これまでの事例を復習しておくこと。	A、H

テキスト	岩間伸之著、2005年、『援助を深める事例研究の方法(第2版)』、ミネルヴァ書房、9784623044283 渡部律子著、2007年、『基礎から学ぶ気づきの事例検討会』、中央法規、9784805829592
参考書	各演習において担当教員から紹介します

成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			50%		50%	
	補足						

質問への対応	各演習内及び演習後に担当教員に質問すること その回の演習以外に関する質問は、オリエンテーション時に説明する方法により質問を受け付けます。
資格	[人]高専(福祉)_ 選必
その他	社会人の履修の場合、(本人の同意を得た上での)事例提供を検討する場合があります。演習という性格上、履修者の構成によりシラバスに多少の変動が生ずることもあります。その際には演習実施の際に説明を行います。

科目名	家族心理学特論	授業形態	講義	単位数	2
教員名	河岸　由里子				
授業の目的	ねらい	対人援助の仕事をするには、家族の理解は不可欠である。人は一人で生きてはいない。子どもであればその保護者が、大人であっても育てた親がいる。それぞれの家族は現状に大きく影響している。特に昨今家族は複雑化している。さまざまな家族の形を含め、家族とは何か、家族心理学の発展から家族療法の技法までを事例を多く活用し、演習や DVD を用いながら学び、家族理解を深める。			
	到達目標	(1)家族を理解することの重要性について認識する。 (2)家族療法の技法の基礎を習得する。 (3)家族支援者としての柔軟性と臨機応変さを身につける。			

授業の計画			
	第1回	【テーマ】家族心理学が担うもの 【計画内容】家族心理学の歴史と理論について基礎的なところを学ぶ。 【準備学習の内容】家族心理学について、自分なりにどういうものか文献などを確認しておくこと。	A、H
	第2回	【テーマ】家族とは何か 【計画内容】様々な家族の形態を事例を通して学びながら、家族とは何かについて考える。 【準備学習の内容】自分なりに、どのような家族の形態があるかについて考えておくこと。ジェノグラムを書けるようにしておくこと。	A、B、J
	第3回	【テーマ】家族の見立て1 【計画内容】家族を理解するうえでカギとなる概念について学ぶ。 【準備学習の内容】家族理解の鍵となるものは何かを考え、何故それらが鍵となりうるのかについても自分なりに考えてみること。	A、H
	第4回	【テーマ】家族の見立て2 【計画内容】家族関係のアセスメントの仕方、考え方について学ぶ。 【準備学習の内容】自分の家族の家族関係について考えておくこと。自分の家族について開示したくない場合は、代わりの家族を用意しておくこと。	A、B、H
	第5回	【テーマ】家族システム論 【計画内容】家族システム論の発展と概要について学ぶ。 【準備学習の内容】システムとはどんなものか、社会における様々なシステムについて考えておくこと。	A、B、G、H
	第6回	【テーマ】家族の成り立ち　カップル・夫婦 【計画内容】家族がどのように作られていくか、個からカップルへの変化とその際に起こる様々な問題や軋轢についてとカップル支援について学ぶ。 【準備学習の内容】個がカップルになるとどうなるか、変化について考えてみること。	A、H
	第7回	【テーマ】親になるということ 【計画内容】夫婦・カップルが誕生し、そこに子供が生まれることで起こる家族の変化について学ぶと同時に、乳幼児期の子育て支援について学ぶ。 【準備学習の内容】子どもを持つことの意味、子育てについて考えてみること。	A、H
	第8回	【テーマ】小学生の子育て 【計画内容】子どもが大きくなってくるにつれ、他家族との関係や、家族内に様々な変化が生まれる。どのような変化がおき、人はそれにどのように対処しているのか、そして我々支援者にできるこの時期の支援について学ぶ。 【準備学習の内容】自分の小学校時代を振り返り、家族と自分の関係、他の家族との関係を考えておくこと。	A、H
	第9回	【テーマ】思春期・青年期の子育て 【計画内容】子育ての終盤に向かい、家族はどうあるべきか。またどのような問題が起こりやすいか。最近の社会情勢から見えるものも含め、その支援について学んでいく。 【準備学習の内容】子育ての最終目標は何かについて考えておくこと。	A、H
	第10回	【テーマ】老年期の家族 【計画内容】高齢化社会の時代において、老年期の家族が抱える問題と支援について学ぶ。 【準備学習の内容】自分の身の回りの高齢者について、その家族とどのような関係性を保っているかを見ておくこと。	A、B、G、H
	第11回	【テーマ】家族療法の理論 【計画内容】家族支援において、家族療法は必要不可欠ともいえる。家族療法の理論についてその概要を学ぶ。 【準備学習の内容】家族療法について何かしら本を読んでおくこと。	A、B、H、N
	第12回	【テーマ】家族療法の技法について学ぶ 【計画内容】家族療法には様々な技法があるが、その主たるものについて学び、それらを活用して家族支援をどのようにしていくかを事例を通じて学ぶ。 【準備学習の内容】変化の処方についてどのようなものがあるか、文献をあたってみること。	A、B、H、N
	第13回	【テーマ】家族の構造理論を家族理解に生かす 【計画内容】家族の構造の中で鍵となるものは何か。何をみて、どこに変化の処方をしていくかについて考える。 【準備学習の内容】第5回で学んだ家族システム論について復習しておくこと。	A、B、H、N
	第14回	【テーマ】実践編1 【計画内容】実際に様々な家族面接をロールプレイで実践していく。 【準備学習の内容】今までの授業の復習をしておくこと。	B、H、N
	第15回	【テーマ】実践編2 【計画内容】家族理解のための技法をロールプレイで実践する。 【準備学習の内容】今までの授業の復習をしておくこと。	B、G、H、N

テキスト	プリントを使用します
参考書	中釜洋子・野末武義・布芝靖枝・無藤清子、2008年、『家族心理学　家族システムの発達と臨床的援助』、有斐閣ブックス、9784641183674 団士郎、2013年、『対人援助職のための家族理解入門　家族の構造理論を活かす』、中央法規、9784805838600

成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分	40%		40%		20%	
	補足			5講義目ごとの小レポート		演習やロールプレイへの参加態度	

質問への対応	質問は授業時間内で対応します。授業でわからないこと、疑問に思ったことはその場ですぐ質問してください。
資格	
その他	集中講義で長丁場になりますが、頑張ってください。また、講師が一方的に話す授業ではなく、全員参加の授業を考えておりますのでワークなど積極的に参加してください。

科目名	人間福祉特別研究Ⅲ	授業形態	演習	単位数	2
教員名	担当教員				
授業の目的	ねらい	修士論文作成に向けた第3ステップとして、1年次の「特別研究Ⅰ」・「特別研究Ⅱ」で進めた基礎的段階を踏まえて、具体的に調査・研究を実施する。問題意識と研究目的の明確化、研究の意義、仮説の設定、データの収集方法、分析の枠組み、予測される結果、先行研究との異同等を含め研究を推進し、途中経過を6月の修士論文中間発表会で発表し、助言を得ながら必要な修正を行う。				
	到達目標	(1)問題意識と研究目的を明確にし、研究方法を具体的に検討し、研究計画を具体的に立案できる。 (2)修士論文中間発表会で研究の内容および進捗な状況を発表し、助言を得ながら必要な修正が加えられる。 (3)データ収集のために必要な準備が具体的に進められる。				
授業の計画	【計画内容】 序盤:研究計画の立案 各自の研究テーマに沿って、前学期に検討した問題意識と研究目的の明確化を再考し、研究の意義、仮説の設定、データの収集方法、分析の枠組み、予測される結果、先行研究との異同等を含め、具体的に立案する。 中盤:研究計画発表会 研究計画発表会で立案した研究計画を発表し、研究を進めるに当たって研究目的は明確か、研究方法は適切か、計画は具体的で実現可能か、先行研究レビューが十分されているか、などについて助言をもらう。それに従って計画に必要な修正を加える。 終盤:データ収集のための準備 量的調査または質的調査を行うに当たり、データ収集のための質問紙作成やインタビュー等の方法と内容、調査依頼、倫理的手続き等について検討し、実施に向けた準備を行う。 【準備学習の内容】 授業のときに提示する課題に取り組むこと。				B
テキスト	講義時に説明します				
参考書	講義時に説明します				

成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			80%		20%	
	補足			研究計画と準備			

質問への対応	各指導教員から指示します。
資格	
その他	授業の日程は学生と調整して決めます。

科目名	人間福祉特別研究Ⅳ	授業形態	演習	単位数	2
教員名	担当教員				
授業の目的	ねらい	「人間福祉特別研究Ⅳ」では、「特別研究Ⅲ」で進めてきた研究の具体的調査または実験等を実施し、結果の分析と考察を行い、修士論文の作成を進める。履修者は、担当教員の指示のもと、追加研究・調査及び実験を実施し、修士論文の加筆修正を行い、中間発表、論文の完成を目指す。			
	到達目標	(1)調査・実験の分析方法について理解する。 (2)効果的なプレゼンテーションについて学ぶ。 (3)研究及び論文の作成を通して、論理的な思考、表現を修得する。			
授業の計画	【計画内容】 序盤 : 1)第1回中間発表会で指摘された事項の修正を確認する。 2)研究目的に沿って実施した調査・実験の分析を行い、分析結果に応じて追加調査の必要があれば行う。分析方法、結果の解釈、考察等について指導を受けながらまとめる。 中盤 : 3)調査・実験等の分析、解釈、考察を行い、研究を進める。 4)主査・副査を交えて、研究の最終的な確認・検討を行い、助言をもらいつつ、修正する。 5)プレゼンテーションソフトで発表用資料を作成し、第2回中間発表会で発表する。 6)第2回中間発表会で助言および指摘を受けた部分を修正し、執筆を進める。 7)国内外の関係学会で発表できるよう準備を進める。 終盤 : 8)第2回中間発表会で指摘された事項について確認し、助言をもとに加筆修正する。 9)図表、文献等を含めて論文の体裁を整え、仮提出する。 10)仮審査で指摘を受けた部分について再考し、加筆修正の上、本提出する。本審査用のプレゼンテーション資料を作成する。 【準備学習の内容】 論文の体裁、文献の記載方法、図表の入れ方等を自己学習しておく。			B	

テキスト	必要時各指導教員から指示します
参考書	適宜紹介します

成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			80%		20%	
	補足			中間発表会			

質問への対応	各指導教員から指示します。
資格	
その他	授業の日程は学生と調整して決めます。

科目名	教育経営特論	授業形態	講義	単位数	2
教員名	佐々木　邦子				

授業の目的		
	ねらい	日本の学校教育は、学力体力低下、いじめ、不登校(引きこもり)、虐待そして教師を悩ませるモンスターペアレント等、多くの課題問題を抱えている。これら、なにげなく見過ごしがちな事柄を「私たち日本人の価値観(従来のくらしぶり)と西欧社会の価値観との間に生じた摩擦・軋轢」という視点で見るところから、教育経営を考える端緒としたい。そして最終的には、教育経営とは「その国が有する文化を理解する」ことから始めなければならないこと、さらには子育て論、善悪の基準、しつけ等を「心理学的アプローチ」を加えて考察することにより、院生各自の教育観を深めさせていくことが出来ればと考えている。
	到達目標	(1)日本で起きている価値葛藤・混乱を「日本と西欧文化の比較」から考察し説明できる。 (2)日本の学校制度の沿革をおさえ、現在の学校制度における良さと問題点を指摘できる。 (3)日本人に下される「悪しき集団主義」について、西欧文化との比較において説明できる。 (4)日本と西欧での「教師の役割」の違いを、その国の文化との関わりから考察できる。 (5)日本の教師に必要なリーガルマインドとカウンセリングマインドの効果を指摘できる。

授業の計画		
	第1回	【テーマ】講義ガイダンスと次回学習内容(政治と学校教育の問題)を提示 【計画内容】15回の学習内容を概観し、次回の課題(アメリカでは政治家が学校で生徒に話をする機会があるが、日本では法律で禁じられている。なぜか?)を把握する。 【準備学習の内容】教育基本法を読んで「自身の考え方をまとめてくること」を指示。	A
	第2回	【テーマ】子どもに政治の関心を持たせるようにするアメリカと関心を持たせないようにしてきた日本 【計画内容】教育基本法～政治教育の禁止の条文の背景にあるもの～民主主義とは何か? 【準備学習の内容】日本独特と思われる学校教育制度について考えてくること(運動会、学芸会等)。	A
	第3回	【テーマ】日本の学校教育制度の沿革 【計画内容】明治期に学校制度が必要となった背景と今日の学校制度への連続性・関係性。 【準備学習の内容】みんな同じという意識で「凝集性」を求める日本の学校制度(集団主義)の是非。	I
	第4回	【テーマ】「悪しき集団主義」と指摘される日本の学校教育に映し出される日本文化 【計画内容】集団主義のルーツを文献から探る(主として会田雄次著『日本人の意識構造』他から)。 【準備学習の内容】授業における「一斉指導形態」は「悪しき集団主義」を示すものなのか。	I
	第5回	【テーマ】授業の一斉指導形態の目的とその効果、デメリットとは何か? 【計画内容】一斉指導形態の授業が目指す「仲間意識の醸成」とはどんなことか。長所と短所とは? 【準備学習の内容】子どもは元来勉強が嫌いと言う通説は正しいのか。	I
	第6回	【テーマ】「勉強が嫌い」とする背景を心理学的、教育学的アプローチで明らかにする。 【計画内容】子どもたちが勉強嫌いになるのは?～動機付け理論、フランス哲学者アランのいう「勉強」について。 【準備学習の内容】子どもたちを評価する～通知表は公簿ではないのに、なぜ作成しているのか。	I
	第7回	【テーマ】通知表は、法的には作成する義務を負っていない。しかし? 【計画内容】通知表のルーツ(明治期の通達文書)と、作成・配付することで生まれる大きな効果。 【準備学習の内容】懲戒と体罰との違いは何か。	I
	第8回	【テーマ】学校教育法に示されている「懲戒と体罰」との違いを判例から具体的に学ぶ 【計画内容】「うるさいから教室を出ていけ!」～これは懲戒か体罰か。 【準備学習の内容】意欲を心理学的、脳科学からアプローチしてみる。	I
	第9回	【テーマ】意欲を心理学では「動機付け」論その他で説明するが、脳科学では? 【計画内容】最新の脳科学の DVD をもとに「学習意欲」を心理学、脳科学から学ぶ。 【準備学習の内容】学級崩壊、いじめ、不登校等自身や周りでの経験から考えてくる。	I
	第10回	【テーマ】学級崩壊・いじめ・不登校等の定義と実際の事例から 【計画内容】学級崩壊、いじめ、不登校等の具体事例から、対応策を考えていく。 【準備学習の内容】カウンセリングマインドとは何か。	I
	第11回	【テーマ】学校・学級・部活動等におけるカウンセリングマインドの重要性とその実際 【計画内容】カウンセリングマインドが重要だと気付かされる実際の事例から、各自で対応策を考える。 【準備学習の内容】リーガルマインドとは何か。	I
	第12回	【テーマ】教職員に必要なカウンセリングマインドそしてリーガルマインド 【計画内容】リーガルマインドが必要とされるに至った背景と今後。 【準備学習の内容】阿吽の呼吸で物事を進めてきた日本も、西欧のように契約書を交わさないとならなくなった?	I
	第13回	【テーマ】日本も訴訟社会に仲間入りした?(教育も医学のようにエビデンスをもとにしていかなければ?) 【計画内容】西欧の文化(契約社会～訴訟が前提)と日本の文化(白黒つけないあいまいさ～阿吽の呼吸で)の比較。 【準備学習の内容】「開かれた学校」の背景を考えてくる。	A、I
	第14回	【テーマ】「開かれた学校」の背景と実際の活動を西欧から学ぶ 【計画内容】「開かれた学校」が求められてきた背景～西欧における住民参加の学校経営。 英国、米国、フィンランド、フランス、カナダ、オーストラリア、ドイツ等々の教育の実態。 【準備学習の内容】グローバル化する社会、日本の教育は今後?	A、I
	第15回	【テーマ】グローバル化する社会、日本の教育の長所を生かした教育経営とは? 【計画内容】世界の中の日本～日本の教育の柱は何にすべきか。 【準備学習の内容】これまでの学習プリント、レポート等から自身の教育についての考え方(戦略)をまとめる。	A、I

テキスト	主にプリントを使用します
参考書	講義時に説明します

成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
配分			30%		20%	50%
補足						口頭発表

質問への対応	初回講義時に説明するが、適宜オフィスアワー或いはメールにて対応します。
資格	[人]高専(福祉)_ 選必
その他	

科目名	教育方法特論	授業形態	講義	単位数	2
教員名	浅尾　秀樹				
授業の目的	ねらい	この講義では、学びを成立させる要件について考察する。そのために、学習内容と学習活動の様式、媒体となる教材等、さらに学習効果の評価法について検討する。			
	到達目標	(1)学び、授業作りについて考察する (2)授業分析の方法について考察する (3)教育評価の方法について考察する			

授業の計画		
第1回	【テーマ】オリエンテーション 【計画内容】本講義における学習課題の認識と学習の進め方について 【準備学習の内容】自分が受けてきた教育について、学習者の立場から考察しておく	A
第2回	【テーマ】個別課題の設定 【計画内容】教育方法についての問題点と検証の方法について、個別課題として設定する 【準備学習の内容】検証の方法を検討しておく	A、F
第3回	【テーマ】学習指導・学習形態について考える 【計画内容】学習成立の前提と学習活動・支援について考える 【準備学習の内容】テーマについての既習事項をまとめておく	A、F
第4回	【テーマ】授業分析法について考える 【計画内容】定量分析と質的分析について考える 【準備学習の内容】テーマについての既習事項をまとめておく	A、B
第5回	【テーマ】教育評価について考える 【計画内容】「何を」「どう」評価するのかを考える 【準備学習の内容】テーマについての既習事項をまとめておく	A、B
第6回	【テーマ】教育評価の実際　1 【計画内容】相対評価と絶対評価 【準備学習の内容】テーマについての既習事項をまとめておく	A、B
第7回	【テーマ】教育評価の実際　2 【計画内容】到達度評価を考える 【準備学習の内容】テーマについての既習事項をまとめておく	A、B
第8回	【テーマ】教育評価の実際　3 【計画内容】ポートフォリオ評価 【準備学習の内容】テーマについての既習事項をまとめておく	A、B
第9回	【テーマ】文献研究　1 【計画内容】教授学、学習指導の視点から 【準備学習の内容】テーマについての既習事項をまとめておく	A、B、F
第10回	【テーマ】文献研究　2 【計画内容】発達の視点から 【準備学習の内容】テーマについての既習事項をまとめておく	A、B、F
第11回	【テーマ】文献研究　3 【計画内容】学力の視点から 【準備学習の内容】テーマについての既習事項をまとめておく	A、B、F
第12回	【テーマ】文献研究　4 【計画内容】教科の視点から 【準備学習の内容】テーマについての既習事項をまとめておく	A、B、F
第13回	【テーマ】個別課題の検討 【計画内容】問題点・課題の抽出 【準備学習の内容】テーマについての既習事項をまとめておく	A、F
第14回	【テーマ】個別課題の発表 【計画内容】研究方法・結果の発表 【準備学習の内容】テーマについての既習事項をまとめておく	A、F
第15回	【テーマ】学習のまとめ 【計画内容】学習全体の振り返りと今後の課題についてまとめる 【準備学習の内容】テーマについての既習事項をまとめておく	A、F

テキスト	プリントを使用する、プリントを使用する
参考書	講義時に説明する、講義時に説明する

成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			80%		20%	
	補足						

質問への対応	講義内に時間を設定する。
資格	[人]高専(福祉)_ 選必
その他	

講義要綱

SYLLABUS

北翔大学大学院

平成30年４月　発行
北翔大学・北翔大学短期大学部
〒069-8511　江別市文京台23番地
TEL（011）386－8011
FAX（011）387－1542